

## 夢の話

金屋中・1 廣實 真歩

私には夢がある  
その夢のためにいつも私は  
努力していた

「努力はむくわれる」  
その言葉を信じて  
ずっとがんばってきた  
でもその一言で  
私は絵を書けなかった

「ゴミを量産するな」  
「紙がもつたいない」  
そんな言葉を  
親だと思ってた人  
大好きだった人に  
投げかけられた

絵を書こうと思うと  
手がふるえ  
そんな日が続き  
もう私は  
「ダメだ」  
と思い

絵なんてかかなくなった

「まほちゃんなんで絵をかかないの」  
クラスの人にいわれた  
私の心には？ばかり  
まほちゃんの絵好きなのに  
もつと？がふえた  
何をいつているのか  
わからない  
「また絵を見せてよ」  
いきおいで  
「うん」  
と言ってしまった

私は  
私の絵が好きだな人がいると知って  
またがんばろうと思った  
書いた絵を見せると  
「ありがとう」  
この言葉で  
うれしい  
で心がいっぱいになった  
そして今  
イラストレーター  
なるために  
努力している